

M5StickCPlusで、リアルタイム測定

概要

M5StickCをWifiのアクセスポイントにして、測定値をスマホで表示します。

実際に使っている様子は、以下の画像をクリックすると確認できます。(Youtubeに飛びます。)



機材

- [M5StickC Plus](#)
- [ToF Hat\(VL53L0X搭載\)](#)

作成方法

- Arduion IDEエディタをインストールする。
- [こちらのサイト\(英語\)](#)を参考に、ライブラリをインストールする。
- 上と同じサイトを参考に、SPIFFの準備をする。SPIFFが何かわからない方は[こちら](#)。
- Arduino IDEのライブラリマネージャから、M5stickC Plus用のライブラリをインポートする。
- Arduino IDEから、M5stickC Plusに書き込めるように、準備する。[こちらのサイト](#)等を参考に。
- [PhysKenのリポジトリ](#)からソースコードをダウンロードし、dataフォルダをSPIFFに書き込み、M5StickCPlus-Real-distance-sensor.inoをM5StickC Plusに書き込めば、準備はOK!

使い方

- スマートフォンのwifi接続画面から、M5stickCに接続する。
- ブラウザから192.168.20.2にアクセス
 - インプットボックスに、indexと入力すると、管理者ページが開けます。
 - インプットボックスにxgなどと打つと、そのページに飛べます。

参考にしたサイト

- [ESP32/ESP8266 Plot Sensor Readings in Real Time Charts – Web Server](#)
 - ネットワークまわりのコードで参考にしました。
- [プログラミング講座 第13回【テトリスを作る\(1\)/JavaScript】](#)
 - htmlのCanvas機能の学習で使いました。グラフ描画のコードでは、かなり参考にしています。

[meta1](#)

[meta2](#)